

事前評価報告書

Advisory Board Meeting 開催日：平成17年7月28, 29日

評価委員：（敬称略、アルファベット順）

Prof. Masuo Aizawa (Tokyo Institute of Technology), Prof. Fritz Aldinger (Max Planck Institute for Metals Research), Prof. Akio Etori (Edogawa University), Prof. Jean Etourneau (Institut de Chimie de la Matière Condensée de Bordeaux), Prof. Colin Humphreys (University of Cambridge), Dr. Tetsuro Ohashi (National Traffic Safety and Environment Laboratory), Dr. Leslie E. Smith (National Institute of Standards and Technology), Prof. Marcel Van de Voorde (European Commission Research), Dr. Stan Williams (Quantum Science Research, Hewlett-Packard), Prof. Hiroaki Yanagida (University of Tokyo)

課題名	ナノ粒子プロセスの高度化によるイノベティブセラミックスの創製に関する研究
研究責任者の所属・氏名	材料研究所 目 義雄
【項目】	評価結果
コメント及びアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの優れた研究成果の蓄積の上にプロジェクトを進めている。 ・近年我々は「化学を通して、より良いセラミックス」と言っていたが、今は「ナノ粒子の先端的な加工と組み立てを通して、より良いナノ構造セラミックス」と言うことができる。ナノ粒子調整からナノ構造デザインへの研究グループの戦略は独創的であり、世界でも類のないものかも知れない。 ・イノベティブセラミックスの生成と特性が、かなり明らかになっている。実用化に向けて、多方面の産業界との共同研究を密接に行うことが重要なステージではないか。 ・プロジェクトに含まれる研究の数と応用の多様性を考えると、これは非常に大きなプロジェクトのように見える。含まれる研究の数はプロジェクトの集中度を弱める結果になるので、どの研究に集中するか高度な立場から選択すべきだろう。
評価点	S, S-, A, S-, A+, A, A, A+, S-, N/A
総合評価点※	A+

N/A=No Answer

※評価点の点数は10(S), 9(S-), 8(A+), 7(A), 6(A-), 5(B+), 4(B), 3(B-), 2(C+), 1(C)とする。総合評価点は評価委員の点数の平均点(小数点第二位以下四捨五入)をXとすると、S:X=10, S-:9≤X<10, A+:8≤X<9, A:7≤X<8, A-:6≤X<7, B+:5≤X<6, (以下同じ考え方)・・・とする。